



行政視察報告書

* 埼玉県八潮市立八條北小学校に伺いました。児童数 77 名、学級数 8 クラスの小中一貫教育研究指定校、埼玉県英語指導方法改善事業研究委嘱指定の学校である。学校関係者 4 名（教育長以下）教職員 3 名（校長以下）にてお迎えいただきました。教育長の歓迎挨拶、教育厚生委員会委員長の訪問挨拶、引きつずき調査事項 13 項目について回答いただきました。質問事項に対する回答は割愛、質疑応答に移り質問事項に係わる質疑が委員各位よりありました。質問事項⑦の再質問に English Shower Day（金曜日）の設定をしている。との回答あり、興味深いと思いました。その後各クラスの現地視察を行いました。全体像として教職員が英語指導に前向きに、積極的に取り組んでいる姿が印象に残った。また ALT を活用したクラス（1 年生？）では明るく、元気に英語活用に向かっていった。個人差もあるとは思いますが ALT が子供たちに寄り添い一緒に遊びその時間帯を英語圏の一ページを作りあげていた又 ALT の採用はプロポーザルによる外部委託とのこと英語指導助手の役割を子供目線で担任教諭とのタッグも良好に組まれていた。

伊豆市に於ける ALT の活用状況を検証していく必要があると感じました。校長以下全教諭が英語教育に熱心で前向きな姿勢を感じました。子供達においては小学校入学と同時に国語、算数に出会うように英語もその一環として取り入れていければ何ら気にかかることではないと思いました。私世代のように英語に対するコンプレックスはないし、英語は世界語になりつつあります。お陰様で私は仕事の関係上必要に迫られて英語に接しました、外国人を目の前に May I help you の一言が言えず佇んでいたこと思い出しました、

英語は生活言語の時代です、伊豆市の子供たちにもなるべく早めに英語に接して行けるように機会提供をしていきたいと思いました。

* 埼玉県草加市リサイクルセンターに伺いました。

質問事項（7 項目）についての回答は別紙にて書面回答をいただいた。

不用品リユース事業の現状と課題についてが主課題、消費社会時代は終わろうとしておりもったいないの気持ち、ものを大切にする意識の醸成を図るねらいのための事業でした。リユース品の展示・売却を通じて、市民のリサイクル意識の高揚、ごみの減量化を図り、循環型社会の形成を推進することを目的としている。テーブル、いす、収納ケース等の家具類が代表的な販

売品目、生活環境の変化にともない不必要な粗大ごみが出る、それらのうちリユースできるものを必要な人に譲る事業であり、リユース事業を促進してゆく考えと感じました。

環境負荷を考えもったいないを実践するリサイクルセンターの一環としてリユース事業は位置づけられていました。

* 高崎市タワー美術館に伺いました。

株式会社ヤマタネの複合ビルの一環の美術館として始まり、高崎市に移管、その後高崎市タワー美術館として近代・現代の日本画作品が紹介されている。日本画に特化した美術館である。質問事項（11 項目）は別紙にて回答いただきました。気にかかる美術館としての歳入歳出は令和 4 年度で歳入 2,785 千円 歳出 87,509 千円でした。美術館の役割はまちづくりの一環、にぎやかさの創造が重要と館長は力説する。

伊豆市の所蔵する作品も過去に展示をしたとのこと、館長自身も新井旅館に宿泊、地元（修善寺）での制作された作品ですので地元への展示が相応しいのではないかと述べられていました。その後美術館を見学。

所蔵と展示の相反する問題はどちらの美術館でも抱える課題でした。

以上行政視察報告といたします。

教育厚生委員会

鈴木優治